

SG ペガ 500 の始業前点検 必ず安全確認をしてからご使用下さい。

本製品はパイプスペース等狭所専用の作業台です。前後が壁面の狭所以外では使用しないで下さい。

ロック確認

- ・手掛かり棒が確実にロックされているか？
- ・開き止めストッパーが掛かっているか？
- ・伸縮脚ロックレバーが確実にロックされているか？
- ・主脚の開閉ストッパーが確実にロックされているか？

異常の確認

- ・手掛かり棒に曲がり・亀裂はないか？
- ・踏みさんに曲がり・亀裂はないか？
- ・天板に曲がり・亀裂はないか？
- ・伸縮脚に曲がり・亀裂はないか？
- ・主脚に曲がり・亀裂はないか？
- ・平らな場所に置いてガタつきがないか？

SG ペガ 500 禁止事項

- ・ **150kg** を超えて載せない。
- ・ **二人乗り** はしない。
- ・ **背を向けて** 降りない。**飛び** 降りない。
- ・ **荷物** を持って昇降しない。
- ・ **不安定な場所** で使わない。
- ・ **乗り出して** 作業をしない。
- ・ 天板の上に **台** を載せて使わない。

組立方法

- ①天板面を下（逆さ）にして置いて下さい。
- ②脚開閉ストッパーピンを解除し、主脚を（左右とも）開いて下さい。※ストッパーが確実にロックされているか確認して下さい。注：収納時は「先折側」から折り畳んでください。
- ③天板をを持ち、本体を起こして下さい。
- ④開き止めストッパー（4箇所）をセットして下さい。
- ⑤左右の手掛かり棒をセットして組立完了。
- ⑥高さ調整のときは、伸縮脚ロックのレバーを引いて左右の伸縮脚を引き出し、
確実にロックされているか確認して下さい。注：収納時は「先折側」から折り畳んでください。

最大使用質量 150kg

- 体重と積荷の合計重量が、最大使用荷重を超えて使用しないこと。
- 同時に2人以上乗らないこと。

注意

- 塗料、接着剤、モルタル、発泡ウレタン等の付着は、全損請求となりますので、養生をお願いします。

危険

- 設置するときや持ち運ぶときは、配電線に注意すること。
- 感電注意。

警告

- 作業台としての使用以外には使わないでください。
- 踏みさん上では作業を行わないでください。
- 天板面が水平になるように設置してください。
- 作業中、壁を押ししたり引いたりしないでください。
- 安定しない場所や滑りやすい場所には設置しないでください。
- 荷物を持って昇り降りしないでください。
- 足元や周囲がはっきり見えない暗がりには設置しないでください。
- 作業台の上で、脚立、架台、はしご等を使わないでください。
- 作業台を高くするために台や箱を使って設置しないでください。
- 天板の端で作業をしないでください。
- 持ち運ぶときは、引きずったり、投げたり、乱暴に扱わないでください。
- 爪先立ちや片足で立たないでください。
- 固定機構部に、コンクリート等の付着が予想される作業に使用する場合には、あらかじめ該当部分の養生をしてください。
- 人を乗せたまま移動しないでください。
- 使う前には各部に異常のないことを確認してください。
- 天板の上に人や荷物を乗せたまま、伸縮脚の長さ調節をしないでください。
- 変形した作業台を使わないでください。
- 天板での作業で上ばかりに気をとられて、足を踏み外さないように注意してください。
- 昇降には、手掛かり棒等を必ず使用してください。
- 補助手すり及び感知バーに体重などを過大にかけると、本体ごと転倒する恐れがあるので、壁つなぎ等の転倒防止処置をとってください。
- 手掛かり棒のロックピンが確実にロックされていることを確認してください。
- 脚部を折り畳んだ状態で使わないでください。
- 使うときは、両側の開き止めストッパーピン、及び脚調節装置を確実にロックしてください。
- 手掛かり棒は踏みさん昇降時の補助具です。用途以外には使用しないでください。
- 作業台を背にして降りないでください。
- 改造しないでください。
- 作業台から身体を乗り出して作業しないでください。

「感知バー」の取り扱いについて SG ペガ 500 感知バー付きモデルの場合

「感知バー」は、SG ペガ 500 の手がかり棒に取り付けて使用する「転落防止のための危険を予知するバー」です。

組立方法

- ①SG ペガ本体を組み立てます。
- ②感知バー付き手掛かり棒 4 本を立ち上げます。
- ③手掛かり棒をつかみ天板に登ります。
- ④本体感知バーを水平になるように起こします。
- ⑤スライドベースを反対側にスライドします。
- ⑥確認孔で内側の連結棒（緑色）が最右端までスライドしていることを確認します。
- ⑦昇降面感知バーを引き出し、逆側の穴に挿入します。
- ⑧組立完了。

～壁面作業の場合～三方囲いの組立方法

- ①上記①～⑥の手順で片側の本体感知バーを組立てます。
- ②組み立てた本体感知バー側の昇降面感知バーを開放側の金物上部の孔に差し込みます。
- ③開放側の昇降面感知バーを組み立てた本体感知バー上の孔に差し込みます。
- ④組立完了

始業前点検事項 作業を始める前に必ず下記項目を点検し、異常がある場合は絶対に使用しないで下さい。

- (1)「本体感知バー」「昇降面感知バー」は、損傷していないか。
- (2) 下記の各二箇所ボルト締結部に緩み・外れ等の異常はないか。
 - ①「手掛かり棒」と「本体感知バー」
 - ②「本体感知バー」と「昇降面感知バー」
 - ③「鉛直部材」と「水平部材」
- (3)「連結棒」は、曲がったり折れたりしていないか。
- (4)「連結棒」が完全に「本体感知バー」に挿入され、確実にロックされているか。
- (5) 連結棒の「スライドベース」に破損・変形等、異常がないか。

禁止事項 感知バーは手すりではありません。

- ①「感知バー」に寄りかかる等、**体をあずけない**でください。
- ②「感知バー」から**身を乗り出さない**でください。
- ③「感知バー」に**足をかけたり、乗ったりしない**でください。
- ④「感知バー」に**安全帯をかけない**でください。
- ⑤「感知バー」に**物を寄せかけたり、寄せたりしない**でください。
- ⑥ 壁面作業以外では必ず**4面**の「感知バー」を**設置**してください。